

第12回 探検！文化財



令和6年12月7日（土）

主催 東広島市教育委員会

< 目次 >

◎ご注意・ご確認いただきたいこと◎	2
◎座席表	3
◎日程表	4
1. 観現寺（厨子〔県重要文化財〕、宝篋印塔〔市史跡〕）	5
2. 旧石井家住宅〔市重要文化財〕	6
・ 道の駅「西条のん太の酒蔵」～（昼食）	
3. 二宮神社	7
（クスノキ〔市天然記念物〕、木造獅子狛犬〔市重要文化財〕）	
4. すくも塚（巨岩、祭祀関係遺跡）	8
5. 長者ヶ滝（山道のトレッキングあり）	9
6. 時報塔〔国登録有形文化財〕	10
・ 第12回 探検！文化財 見学先（地図）	11

◎ご注意・ご確認いただきたいこと◎

<全体を通して>

- ・ イベント中に体調不良が確認できる方には職員がお声掛けをし、場合によっては帰宅をお願いする場合があります。ご了承ください。
- ・ 貴重品については、ご自身での管理をお願いします。
- ・ 係員の指示に従って行動するようにお願いします。
- ・ 見学の様子を広報用に撮影します。ご了承ください。

<バス>

- ・ 基本的にこちらが指定した座席にお座りください。
グループ内での席の移動は差し支えございません。
- ・ バス車内での食事はご遠慮ください。

<屋外の移動について>

- ・ 狭い道を通る場合があります。基本的に1列に並んで移動してください。
また、未舗装の箇所もありますので、足元に十分ご注意ください。
- ・ 各見学場所においては、個人宅の近くを通る場合があります。撮影などのマナーを守って見学するようにお願いします。

<お手洗いについて>

- ・ お手洗いに行ける機会が少ないため、出発前の市役所やお昼休みの道の駅西条のん太の酒蔵で、必ずおすませください。

<昼休憩>

- ・ 道の駅西条のん太の酒蔵にバスを駐車させます。昼食は各自でおすませください。
時間内は周辺の散策等もしていただけます。
- ・ 12:40にはバスにお戻りください。

第12回探検！文化財 日程表

区分	時刻	内容
受付 開会行事	08:30～08:50 08:50	集合・受付場所：東広島市役所 開会 あいさつ コース概略説明並びに注意事項
	09:10	市役所出発
見学	09:30	観現寺見学（50分程度）
	10:20	観現寺出発
見学	10:40	旧石井家住宅見学（40分程度）
	11:20	旧石井家住宅出発
休憩	11:40	昼食 西条のん太の酒蔵（60分）
	12:40	西条のん太の酒蔵出発
見学	13:10	二宮神社見学（30分程度）
	13:40	二宮神社出発
見学	13:55	すくも塚見学（20分程度）
	14:15	すくも塚出発
見学	14:30	長者の滝見学（40分程度） （片道10分程度の山道歩行あり）
	15:10	長者の滝出発
休憩	15:20	トイレ休憩（志和中学校）（10分程度）
見学	15:40	時報塔見学 鐘つき体験（20分程度）
	16:00	時報塔出発
	16:30	市役所着 解散

1. 観現寺



▲ 観現寺の厨子

①観現寺厨子〔広島県重要文化財〕

寛政6（1794）年頃に再建されたと伝わる観現寺の本堂に安置されています。

如意頭飾りのついた1間厨子と呼ばれているもので、小さな須弥壇の上に安置されています。肘木などは唐様ですが、中備には本墓股を入れ、その左右の脚は別々な木を利用した古式なものです。脚端は欠損していますが、背後の琵琶板にその痕跡が認められます。この厨子は、建築意匠の特徴から15世紀後期の造立と考えられます。

②宝篋印塔〔東広島市重要文化財〕

この宝篋印塔は、観現寺の南側の小高い墓地に存在し、周囲には五輪塔や板碑などもあります。宝篋印塔は、高さ約101 cm、最大幅約34 cmで、笠部の隅飾突起や基部の格狭間の形態は鎌倉時代の特徴を備えています。ただ、笠部と塔身の組み合わせは異なっていて、複数のものが組み合わさっているようです。

塔身は高さ約28 cm、幅約22 cmの直方体で、「側面に梵字、左に勝屋右京墓、右に建保四丙子年（1216）七月八日」と刻まれていると『芸藩通志』に記載がありますが、現在は風化し、梵字以外は判読できません。勝屋右京（猪俣太）は、源頼政の家人で、治承4年（1180）に頼政が宇治平等院で敗死した後、平氏の追及を逃れた菖蒲の前（頼政の妻）に付き従い、この地に隠棲したと伝わります。



▲ 覆屋

宝篋印塔（中央）▶



2. 旧石井家住宅〔東広島市重要文化財〕

旧石井家住宅は、元、西条四日市^{よっかいち}の旧西国街道沿いにあった江戸時代の町家です。江戸時代には酒造業を営んでいたと伝えられており、幕末には旅籠^{はたご}、明治4（1871）年以降は薬店となっていました。解体工事の際、鬼瓦^{おにがわら}に寛政7^{かんせい}（1795）年の銘が見つかり、建築年代が明らかになりました。

2階は高さが低く、物置等に使われるツシ二階と呼ばれる形状のものです。

正面から見た屋根の形が甲冑^{かっちゅう}の兜^{かぶと}に似た「兜造り^{かぶとづく}」と呼ばれる形となっています。これは白牡丹^{はくぼたん}の延宝蔵^{えんぼうぐら}と同じ形式で、この地方の大規模な町家で多く用いられた形式と考えられています。

西条四日市^{よっかいち}の町並みを代表する建築で、この地方の建築文化を今に伝える重要な町家です。



旧石井家住宅



鬼瓦裏面



3. 二宮神社

大同2（807）年8月5日に坂上田村麻呂が平城天皇の勅を奉じて創建したと伝わる古社です。志和の奥屋、冠、七条栴坂、別府の総鎮守社として信仰されてきました。

①木造獅子狛犬〔東広島市重要文化財〕

阿形^{あぎょう}吽形^{うぎょう}一對の獅子狛犬像で、角がなく口を開けている写真左側の像が獅子（阿形）、角があり口を閉じている右側の像が狛犬（吽形）です。どちらも一木造りで、二宮神社が再興されたと伝わる16世紀の製作と考えられています。県内で高さが70cmを超える木像はほとんど残っておらず、その点も特筆すべきものと言えます。

②二宮神社のクスノキ〔東広島市天然記念物〕

樹高が24m、胸高幹囲が2.91mある巨樹です。幹が地上から6.5mあたりで2つに分かれています。クスノキは暖地で特によく生育しますが、比較的冷涼なこの地でこれほどまでに大きく成長することは大変珍しいことです。



木造獅子狛犬

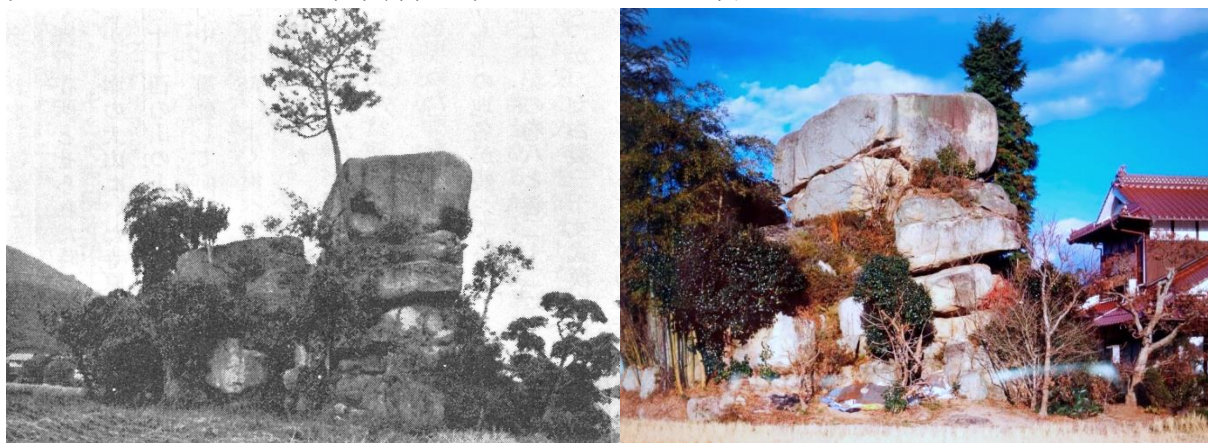
左が獅子（阿形）、右が狛犬（吽形）



クスノキ

4. すくも塚（寸久毛塚）

平地の中に、高さ約5mの^{かこうがん}花崗岩の巨岩がそびえ、目をひきます。もともと、花崗岩の岩脈があったようですが、岩の軟弱な部分が風化し、硬かった部分が残され、このような景観ができたようです。人工的に石が積み重なっているようにも見えますが、これは、花崗岩の^{せつり}節理によるもので自然にできたものです。



すくも塚（左：昭和40年代、右：平成10年）

かつて（明治ころまで）は、岩の上に岸神社という祠があり、岩そのものが御神体となっていました。また、巨岩の麓からは弥生土器や須恵器などが出土していて、古くから信仰の対象となっていたと考えられます。

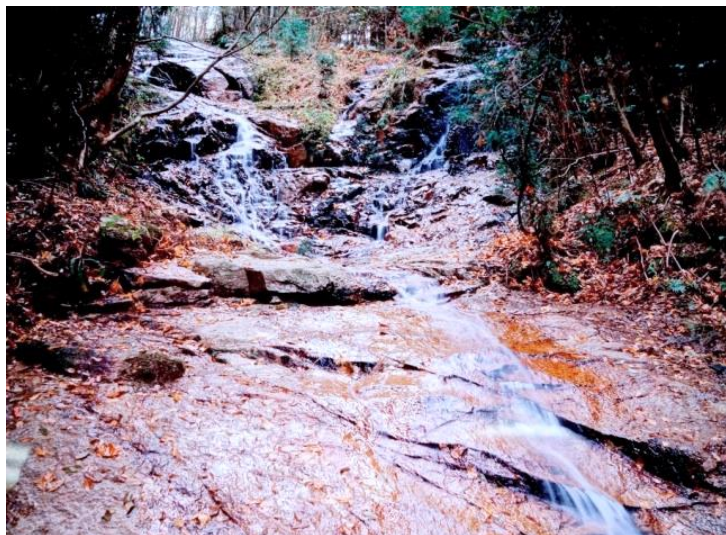
この「すくも塚」には、『大昔、この場所に長者百姓が居て、^み箕で^{すくも}さびた^{から}塚（箕を振るって出た穀物の殻）が年々積み重なってこの岩となった』という伝説が残っています。



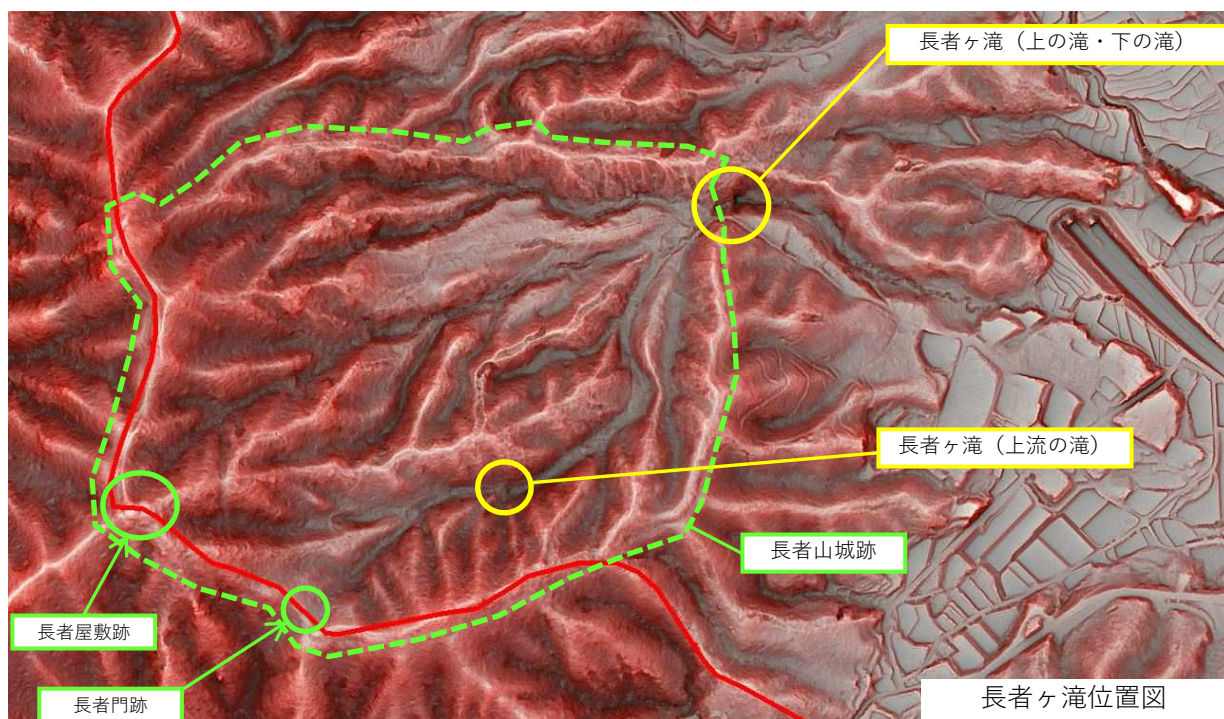
5. 長者ヶ滝

広島市との境にある長者山（標高約 601m）の東斜面、標高約 316～339mあたりにあり、^{せきがわ}関川の支流の長者川にかかる滝です。滝は大きく上の滝と下の滝に分かれ、上の滝は落差 7 m、下の滝は落差 8 mほどあります。更に 500m上流には落差 2mほどの小規模な滝（上流の滝）があります。

滝の名前の由来である長者山には「長者屋敷」と呼ばれる平坦面や、「長者門」と呼ばれる石組みなどがあり、この滝の近くにも「滝の宮」と呼ばれる平坦面があったことが伝わっています。近年、この長者山が、古代山城であることがわかってきており、古代遺跡と伝承と滝との深いかかわりを感じます。



長者ヶ滝（上の滝）

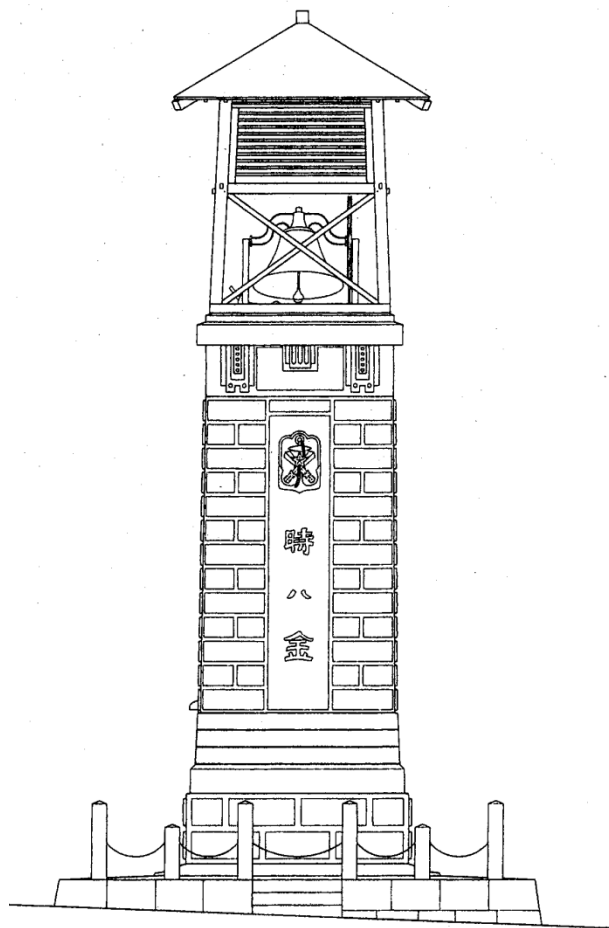


長者ヶ滝位置図

6. 時報塔〔国登録有形文化財〕

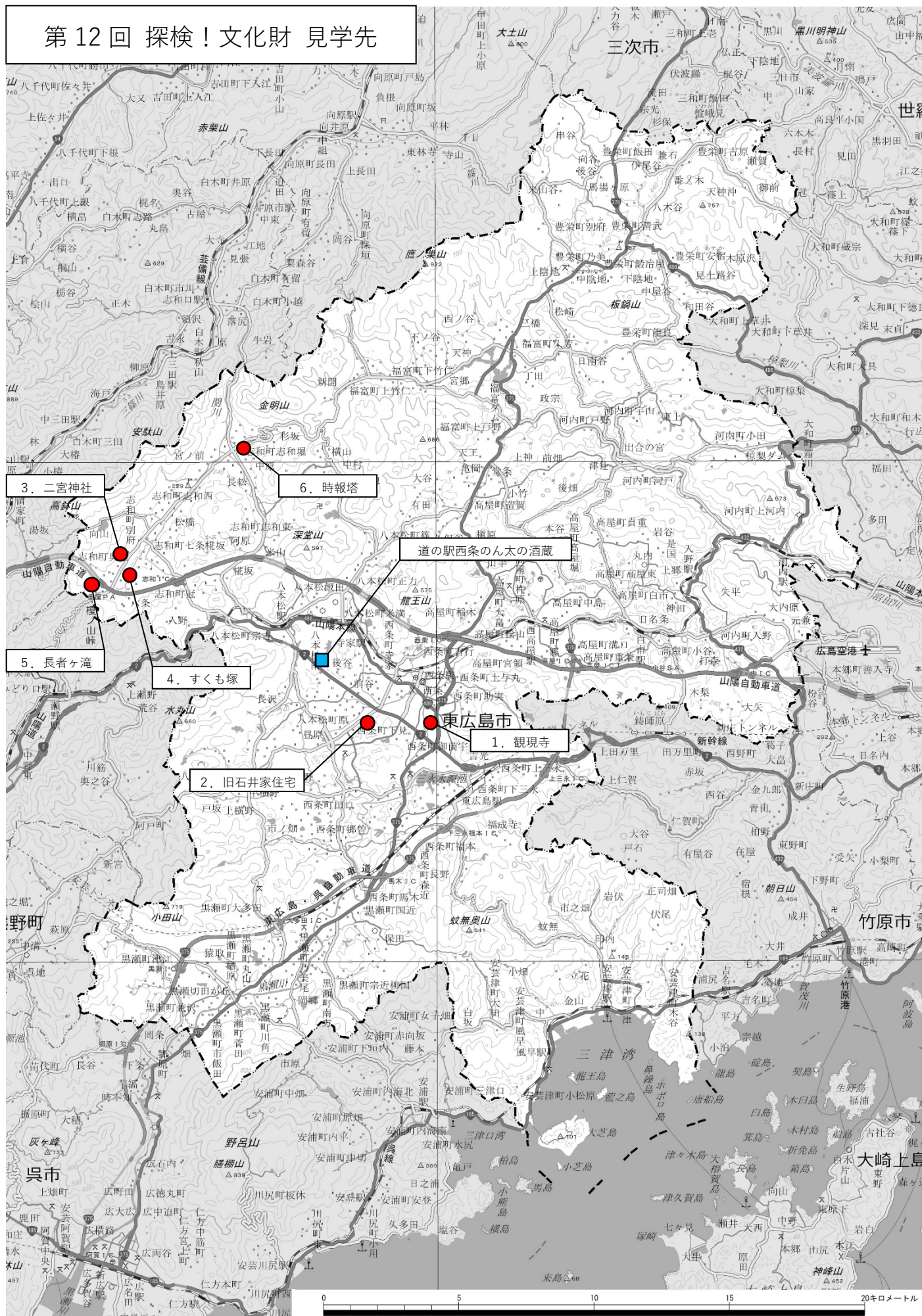
大正 11（1922）年、旧志和堀村の在郷軍人会が時間励行を主唱していることを聞いた同村出身のアメリカ在住者 15 人が、同国製の鐘を贈りました。この鐘を吊るすために村で建設されたのがこの時報塔です。コンクリート製ですが、石造り風に仕上げられた壁面やアールデコ風の装飾は、味わい深いものがあります。

上部の木造部分は、昭和 17（1942）年に改造され、サイレンが取り付けられました。建築 100 周年を迎えた現在も、サイレンにより時を告げる塔として機能しており、広く地域で親しまれています。



時報塔（左：写真、右：実測図）

第12回 探検！文化財 見学先



第 12 回 探検！文化財 資料

東広島市教育委員会
生涯学習部文化課

〒739-8601
東広島市西条栄町8-29
TEL082-420-0977